

食事のことは

食前のことは

「合掌」

● 多くのいのちと、みなさまのおかげにより、
このごちそうをめぐまれました。

(同音) 深くご恩を喜び、ありがたくいただきます。

食後のことは

「合掌」

● 尊いおめぐみをおいしくいただき、
ますます御恩報謝につとめます。

(同音) おかげで、ごちそうさまでした。

「食事」をいただく時に、わたしたちは何を思い、どのような思いをいただいているのでしょうか。

「食」— それは「多くのいのち」をいただいています。

「食」— そこには「みなさまのおかげ」がありました。

「食」— 仏さまの「ご恩」を深く喜ぶことができます。

「食」— 「慚愧」と「歡喜」の心でもって「仏恩報謝」につとめてまいりましょう。

食事の際に一人ひとりが「ご恩」を味わえるように、新「食事のことば」ができました。

従来から親しんでこられた方も、いままであまり口にされてこなかった方も、この新「食事のことば」を自ら声に出して、深く尊い「ご恩」を喜ばせていただきましょう。

〔食前のことば〕

解 説

わたしたちは、食べ物をいただくことで、毎日を過ごしています。

この食事には多くのいのちをいただいています。またこの食事がわたしの口に届くまでには、多くの方のご苦勞もありました。

阿弥陀さまは、わたしたちが、多くのいのちと、みなさまのおかげによって、初めて生きることができているのだと、明らかにしてくださいました。

このご恩を思い、お食事を大切にいただきましょう。

〔食後のことば〕

解 説

お食事をいただいたわたしたちは、尊いおめぐみをいただきました。多くのいのちと食事を用意してくださった方々のご苦勞を思い、そのおかげでのちをいただいています。

いまここにいのちあるわたしを、必ず救うと願い、支えてくださっているのが阿弥陀さまです。このご恩を思い、阿弥陀さまの願いに応えようと、精一杯に生きていきましょう。